

豆狸の寝言

副会長 三原幸二

「心臓にペースメーカーを入れられた方や、他のお客様の迷惑になりますので、携帯電話使用はご遠慮ください」

電車に乗っていると、こんな車内放送をよく聞く。30分も乗っていると、2回は放送がある。

にもかかわらず、携帯電話を使っていた人たちは、あいかわらず指をチョコチョコ動かしている。ほとんどが、満員電車に揺られ、押され乗っている身には、「指先チョコチョコ」は不愉快でたまらない。

このマナーの悪さ、何とかならないか。などと思っているうちに、このごろは、タバコの禁煙放送を聞かないことに気がついた。

最近はこの駅のホームでも、喫煙エリアがあり、くわえタバコをしている人を見かけない。私もかつては、相当なヘビースモーカーであったから、禁煙のつらさは身にしみて知っている。

それなのに、この行儀のよさはいったい何だろう。よほど嫌煙権が浸透したということか。最近不思議におもう現象の一つである。

タバコは確かに、近くにいる非喫煙者にも健康被害を及ぼす。がんや呼吸器疾患の危険性が高まることが分かっている。

これと同様に、いやそれ以上に、心臓にペースメーカーを着けている人にとっては、携帯電話を使っている人のそばにいることの被害は大きい。携帯電話の電磁波がその人の生死を左右することもあると聞く。もし、電磁波の影響で、ペースメーカーを着けた人が死ぬようなことがあれば、これは明らかに殺人的行為である。赤信号を無視して人をはねて死なせたドライバーと同じ責めを受けねばならぬはずである。しかし、「指先チョコチョコ」の若者たちは、そんなことが起こるとは夢にも思わない。またペースメーカーを着けた人が自分の横にいるかもしれない、などとは考えもしない。

だとすれば、「指先チョコチョコ」をやる人種は、想像力が欠如した人種であるということになりそうだが、はたしてそうか。



タバコの煙を嫌がる人に比べて、心臓ペースメーカーを着けている人はごく少数だろう。それだけに、自分のそばにそのような人が乗っていると思うためには、想像力がある。思いやりがなければこの種の想像力は働かないから、彼らに思いやりを求めるのは、ないものねだりに等しい。だから、彼らは「指先チョコチョコ」をやめないのではないか。

一方、タバコの煙は目に見える。においもわかる。煙とにおいを浴びせられた人がいやな顔をすれば、想像力を働かせなくても、誰のせいかは一目でわかる。

嫌煙権が浸透し、タバコ被害のPRが利いたおかげもあるのだろうが、禁煙マナーが普及したのは煙が目に見えるおかげかもしれない。

もしそうだとしたら、ケータイの「指先チョコチョコ」をやめさせるためには、のんきな車内アナウンスよりも、想像力を刺激する方法を考えることが先決である、ということになりそうである。

社内で、老人が自分の前に立っている。「しんどそうだな」と思って席を譲る。この「しんどそうだな」と思う心、すなわち「相手の立場になってみる」という想像力が、思いやりの本質なのだから。

(「マナーを守る」ということ)